

公益社団法人 日本水産学会
令和2年度第1回理事会議事録

1 開催された日時 令和2年3月11日（水）13時00分～15時28分

2 開催された場所 国立大学法人東京海洋大学品川キャンパス
2号館200A-1および2（東京都港区港南4-5-7）

3 理事総数及び定足数

総数 19名，定足数 10名

4 出席理事総数 19名

（上記2の会場での出席）

岡崎恵美子，金子豊二，小椋 聡，佐藤秀一，東海 正，中田英昭，萩原篤志，舞田正志，吉崎悟朗，
和田時夫（決議事項 第1号議案「令和元年度事業報告」の審議中 13時05分に着席）

（Web会議システムによる出席）

家戸敬太郎，黒倉 寿，越塩俊介，高野みゆき（旧姓：馬久地），田中教幸，日向野純也，安井 肇，横山芳博，良永知義

5 出席監事

（上記の2の会場での出席） 北田修一，杉田治男

6 出席幹事

（上記の2の会報での出席） 坂本 崇，遠藤雅人，福島英登，矢澤良輔，甘糟和男

7 議案

決議事項

第1号議案 「令和元年度事業報告」の件

第2号議案 「令和元年度貸借対照表，正味財産増減計算書，財産目録及び監査報告」の件

第3号議案 「令和2年度春季大会の対応」の件

第4号議案 「令和2年度春季大会で開催予定だったシンポジウム及びミニシンポジウムの対応」の件

第5号議案 「令和元年度学会賞・論文賞授賞式及び受賞者講演の対応」の件

第6号議案 「シンポジウム企画委員会委員の追加」の件

第7号議案 「国際交流委員会委員の追加」の件

第8号議案 「共催，協賛，後援の取り扱いの申し合わせ別表の一部改正」の件

第9号議案 「入会承認」の件

第10号議案 「正会員から学生会員へ会員資格変更の承認」の件

報告事項 ① 令和元年第7回理事会以降の職務執行の状況

② その他確認事項

8 議事の経過及びその結果

(1) 定足数の確認等

佐藤会長が定足数の充足及び Web 会議用装置からなる Web 会議システムにより、出席者の音声、映像が即時に他の出席者に伝わり、出席者が一堂に会するのと同様に適時的確な意見表明が互いにできる状態となっていることを確認した。続いて本会議の議事進行について説明があった。

(2) 議案の審議状況及び議決結果等

定款の規定に基づき、佐藤会長が議長となり、本会議の成立及び Web 会議システムを用いて開催する旨宣言し、議案の審議に移った。

(決議事項)

第 1 号議案 「令和元年度事業報告」の件 (別紙 1)

佐藤会長から、令和元年度事業報告について原案の説明があった。審議の結果、出席理事全員一致で原案のとおり可決した。

第 2 号議案 「令和元年度貸借対照表、正味財産増減計算書、財産目録及び監査報告」の件 (別紙 2)

東海財務当理事から、令和元年度貸借対照表、正味財産増減計算書、財産目録について原案の説明があった。また、杉田監事から監査報告書について説明がなされた。本報告について以下の質疑があった。

佐藤会長 「正味財産が 656 万円増あるが、公益社団法人として問題はないか。」

東海理事 「会計の規模から考えて内部留保として特に問題はない。」

金子理事 「正味財産増減計算書の冊子体購読収入、コンソーシア契約収入やそのほかの収入が 0 となっているがこの項目は必要か。」

東海理事 「これらの項目は公益認定等委員会事務局の指摘で Fisheries Science 契約に関わる収入に一本化されているので今後は必要ない、次回から項目を削除する。」

萩原理事 「受取会費について学生会員数との乖離があるがこれはどういう意味か。」

東海理事 「学生会員費の変更や退会時期とのずれによって生じた差異である。」

審議の結果、出席理事全員一致で原案を可決した。

第 3 号議案 「令和 2 年度春季大会の対応」の件

令和 2 年度春季大会委員長である金子総務担当理事から、新型コロナウイルス感染拡大に起因する令和 2 年度春季大会対応について説明があった。講演要旨集の発行をもって研究発表は成立したとみなし、参加費は返還しない。会員交歓会費については返還する。本議案について以下の質疑があった。

萩原理事 「返金が複雑そうであるがどのように行うのか。」

金子理事 「トーヨー企画に依頼しているが、銀行振り込みになると聞いている。」

舞田理事 「特許の新規性取り扱いについての対応はどうなるのか。」

東海理事 「例外措置の対応は現在必要なくなった。」

審議の結果、出席理事全員一致で原案のとおり承認した。

第 4 号議案 「令和 2 年度春季大会で開催予定だったシンポジウム及びミニシンポジウムの対応」の件

吉崎総務担当理事から、令和2年度春季大会で開催予定だったシンポジウム及びミニシンポジウムの対応について要旨集の発行をもって「開催した」として原則取り扱うが希望するシンポジウムに関しては次回以降の大会での開催を認めるとする原案の説明があった。本議案について以下の質疑があった。

横山理事 「見なし開催については了解した。シンポジウム企画者からシンポジウムの開催は、令和2年度秋季大会はもとより令和3年度春季大会では開催可能か、講演者や要旨の再編成は可能かとの意見が出ているので議論していただきたい。」

佐藤会長 「全て可能である。」

横山理事 「次回の開催を希望する場合、要旨に関してはもう一度提出することは必要か。また、内容が同じであれば再度提出する必要はないのか。」

吉崎理事 「実務的なことを考えると当該大会の要旨集にシンポジウムの要旨を挟み込まないと聴講する側にとって不便である。重複は生じるがシンポジウム開催時の要旨集にシンポジウムの要旨を掲載することが望ましいと考えられる。」

横山理事 「開催についてはどうなるのか。今回の見なし開催が開催日となるのか、次の開催が開催日となるのか。それとも両方開催日となって2回開催となるのか。」

東海理事 「研究発表も含めて2回同じものを発表する形になる場合に、学会として今回は特例として剽窃にあたらないという扱いで良いのか、それをどこかで宣言しておくのか、開催期間をどこまで許容するのか、同じタイトルでの発表に関しても受け入れるのか等について方針を決めておく必要がある。」

金子理事 「秋季大会もスケジュールに限界があるので次回春季大会までシンポジウムの開催可能としてはどうか。」

佐藤会長 「次回春季大会までシンポジウムの開催可能とする。」

横山理事 「令和2年度秋季大会のシンポジウム会場は現在のところ余裕はあるか。」

安井理事 「現在のところ、会場に余裕はある。」

金子理事 「令和2年度秋季大会の開催について新型コロナウイルスの影響はあるのか。」

安井理事 「準備は行っているが、今後の状況については十分見極めて進める必要がある。」

佐藤会長 「次回理事会に原案を作成して承認してはどうか。」

金子理事 「理事会議事録に残してそこから随時会員への周知をしてはどうか。」

東海理事 「金子理事の提案に賛成する。その際、新規性に関する本学会の取り扱いについても会員に周知すべきである。」

黒倉理事 「次回以降再開催するシンポジウムを開催していないことにできないのか。」

金子理事 「シンポジウム要旨も一部発行される予定であるし、シンポジウム

を含めて「見なし開催」ということにしているので取り消しは難しい。」

吉崎理事 「何らかの理由で今回の春季大会で行う予定であったシンポジウムを今後開催しないということもあり得る。このことから、今後の開催を希望しないシンポジウムに関しては今回「見なし開催」とし、次回以降再度開催されるシンポジウムに関しては記録としては再度実際に開催した日時・内容で「実際の開催」とすることでどうか。」

萩原理事 「一般研究発表（口頭及びポスター）については未発表のものに限るということになっているが、次回、同様の内容で発表できないということか。研究発表の場合は半年経過すると新しいデータも出てくるが、シンポジウムは総説的な部分も多いのでこれまで議論してきたような対応になるということか。」

金子理事 「一般研究発表は多少重複があっても違う内容の新たな発表として取り扱う。」

舞田理事 「大会規程の第2条第1項では大会を開催し、研究発表会を行う、第3項では大会では、研究発表、シンポジウム、講演、展示、その他公益に資する行事を行う、とあるので研究発表とシンポジウムは別の取り扱いでシンポジウムに関しては中止という報告をしても良いのではないか。」

東海理事 「第3項に記載があるので大会の行事に含まれているのではないか。」

舞田理事 「第3項の解釈次第である。」

佐藤会長 「大会に含まれるということでシンポジウムを一律中止というのは難しいのではないか。」

金子理事 「事情はさまざまであるので一律中止にはせずに個別の対応でよろしいのではないか。」

東海理事 「今回の春季大会では見なし開催が成立するが、次回以降、同様の内容のシンポジウムを開催しても剽窃にあたらないということで本学会としては取り扱い、さらに研究発表については今回の春季大会で発表済みとして次の発表は新たな発表として取り扱うということによろしいか。」

佐藤会長 「そのとおりである。」

審議の結果、出席理事全員一致で、令和2年度春季大会と同様の内容のシンポジウムを令和2年度秋季大会または令和3年度春季大会で開催することができることを承認した。

第5号議案 「令和元年度学会賞・論文賞授賞式及び受賞者講演の対応」の件

吉崎総務担当理事から令和元年度学会賞・論文賞授賞式は中止し、受賞者講演は令和2年度秋季大会中に行い、功績賞受賞者の挨拶は令和3年度春季大会中の授賞式で行う旨の原案の説明があった。本議案について以下の質疑があった。

萩原理事 「受賞者講演の講演要旨もシンポジウムなどと同様の扱いになるの

か。令和2年度春季大会の抜粋という形で令和2年度秋季大会の要旨に掲載するなどの対応をするのか。」

金子理事 「日本水産学会誌に受賞内容が5月に掲載されるので不要ではないか。また、発表自体は秋季大会事務局と相談する必要がある。」

黒倉理事 「ネット上での講演配信について検討してはどうか。」

和田理事 「受賞講演なのでしっかり会場を用意して行ったほうが良い。」

佐藤会長 「秋季大会に受賞講演を行うことは可能か。」

安井理事 「現状、秋季大会で受賞講演を行うことは可能である。」

佐藤会長 「座長は次期の理事会で調整していただく。」

審議の結果、出席理事全員一致で原案のとおり可決した。

第6号議案 「シンポジウム企画委員会委員の追加」の件

吉崎総務担当理事から、シンポジウム企画委員会委員の追加について原案の説明があった。審議の結果、出席理事全員一致で次のとおり可決した。

[選出] 米山和良，高橋希元，松川雅仁，久田 崇，江幡恵吾，石原賢司，平山 真，藤本貴史，淀 大我

第7号議案 「国際交流委員会委員の追加」の件

萩原国際交流担当理事から、国際交流委員会委員の追加について原案の説明があった。審議の結果、上記2の会場での出席理事の全員一致で次のとおり可決した。

[選出] 佐藤秀一（就任は会長退任後）

第8号議案 「共催，協賛，後援の取り扱いの申し合わせ別表の一部改正」の件

吉崎総務担当理事から、共催，協賛，後援の取り扱いの申し合わせ別表の一部改正について原案の説明があった。審議の結果、出席理事全員一致で原案のとおり可決した。

第9号議案 「入会承認」の件

審議の結果、出席理事全員一致で原案のとおり可決した。

第10号議案 「正会員から学生会員へ会員資格変更の承認」の件

審議の結果、出席理事全員一致で原案のとおり可決した。

(報告事項)

① 令和元年第7回理事会以降の職務執行の状況

・会長

佐藤会長から、水産学若手の会委員会について次の報告があった。

1) 委員長を交代した。

2) イギリス諸島水産学会から大学院生を春季大会に招待する予定であったが、春季大会が中止となったため、次の秋季大会に招待する方針で検討を進めている。

・庶務関係

吉崎担当理事から、下記の報告がなされた。

1) 令和元年度資格喪失について

2) 除名者（会費未納）の会費納入による退会への変更について

亭島博彦（正会員，平成9年度除名）

3) 協賛について

共催，協賛，後援の取り扱い申し合わせ 3)を適用した。

① 第3回海中海底工学フォーラム・ZERO

主催 海中海底工学フォーラム・ZERO 運営委員会
協賛 日本船舶海洋工学会 他7団体
日程 令和2年4月24日（延期が決定）
場所 東京大学生産技術研究所 An棟 2F コンベンションホール「ハリコット」（東京都目黒区）
希望 協賛
負担金 なし

② 食品ハイドロコロイドセミナー2020

主催 食品ハイドロコロイド研究会
協賛 化学工学会 他20学協会
日程 令和2年5月20日
場所 東京海洋大学品川キャンパス楽水会館大会議室（東京都港区）
希望 協賛
負担金 なし

③ 第31回食品ハイドロコロイドシンポジウム

主催 食品ハイドロコロイド研究会
協賛 化学工学会 他20学協会
日程 令和2年5月21日
場所 東京海洋大学品川キャンパス楽水会館大会議室
希望 協賛
負担金 なし

④ Techno-Ocean 2020

主催 テクノオーシャン・ネットワーク
協賛 日本物理学会 他72団体
日程 令和2年10月1日～3日
場所 神戸国際展示場2号館（兵庫県神戸市）
希望 協賛
負担金 なし

・企画広報関係

金子担当理事から，3月5日に第1回委員会を開催したとの報告があった。

・財務関係

東海担当理事 特になし

・編集関係

東海担当理事から，次回委員会を3月28日午前中に開催し，Springer担当者からの Fisheries Science の前年度出版状況の報告，2重投稿の調査報告と対応措置の検討，論文賞の被引用サイト論文表彰について見直しを検討する予定であるとの報告があった。

・学会賞関係

萩原担当理事から、春季大会期間中の委員会が中止となったため、メール会議にて委員長及び副委員長の選任を行うこととし、学会賞の適正な審査を推進するための推薦書類の変更案については新たな委員長のもと秋季大会中の委員会で議論する予定であるとの報告があった。本報告に対して次の質疑があった。

金子理事 「推薦については例年通り、7月末締め切りか。また、書式の変更に
関しては一つ修正すると次の問題が見つかり、かなり難しいので
大局に立った修正が必要であると考えられる。」

萩原理事 「推薦については例年通りである。推薦書の書式の変更については
春季大会中の委員会で議論したかったのだが残念である。」

・シンポジウム関係

横山担当理事から、春季大会中に委員会を開催予定であったが、メール会議で行うこととなったとの報告があった。また、春季大会中にシンポジウム2件とミニシンポジウム3件を開催する予定であったが、本理事会で議論した内容を伝えて秋季大会以降の対応を検討したいとの報告があった。

・出版関係

越塩担当理事から、以下の報告があった。

- 1) 新型コロナウイルスの感染拡大や春季大会の中止があり、e-水産学シリーズの採択済み企画（2件）の刊行スケジュールを半年順延することが決定した。
- 2) ベルソブックスに関連する事案が発生した場合には委員会で対応することが決定した。
- 3) 丸善出版の水産学百科事典については細川新委員長の元で改めて刊行の調整を行う。

・水産技術誌監修関係

日向野担当理事 特になし

・国際交流関係

萩原担当理事から、次の報告があった。

- 1) 令和2年度春季大会SDGsセッションが中止されたが、イギリス諸島水産学会から派遣予定のドクターコースの学生を次回秋季大会の若手の会主催シンポジウムに招待することについて検討を進めている。
- 2) 令和2年度春季大会のSDGsセッションでは外国からの日本人以外の発表者が初めて参加を希望していた。今回、春季大会が中止となり、返金等の想定をしていなかったため、作業が複雑であった。
- 3) 次回のSDGsセッションは令和3年度春季大会で行う予定であり、運営作業については可能などころからマニュアル化を進めたい。

また、佐藤会長から次の報告があった。

- 1) オーストラリアのアデレードで開催予定の世界水産学会議ではアブストラクトが1400件近く集まっている。2024年に開催予定の次回の世界水産学会議の開催地はアメリカのシアトルになる可能性が高いが、3月開催予定であることから日本人の出席者が少なくなりそうである。

・水産教育関係

良永担当理事 特になし

- ・水産政策関係

黒倉担当理事 特になし

- ・漁業・資源管理関係

東海担当理事から、今回中止されたシンポジウムについては令和3年度春季大会に改めて企画されることがメール審議で決まっているとの報告があった。また、令和2年度秋季大会では委員会のみを開催するとの報告があった。

- ・水産利用関係

岡崎担当理事から、3月26日に開催予定の令和2年度第1回委員会が中止となったとの報告があった。

- ・水産増殖関係

家戸担当理事から、3月26日に開催予定の令和2年度第1回委員会が中止となったとの報告があった。

- ・水圏環境関係

萩原担当理事から、次回の沿岸環境関連学会連絡協議会（沿環連）ジョイントシンポジウムについて内容などを計画した時点で補助金について学会に申請し、承認を得るよう、水産環境保全委員会の樽谷委員長と栗林幹事に伝え、了承したとの回答を得ているとの報告があった。また、水産環境保全委員会からは沿環連ジョイントシンポジウムの補助金として本学会から委員会に10万円受け取っているとの認識であって後援の負担金ではないとの報告がなされた。本報告に対して次の質疑があった。

金子理事 「理事が変わるので分かりやすい形で引継ぎをしたい。シンポジウム毎に理事会で審議する。」

萩原理事 「今回の件は後援ではなく、共催であればよかった。今後はシンポジウムの枠組みを考え、水産環境保全委員会と理事会との2重チェックで行うことが必要である。シンポジウムは公益事業として重要な事柄であることから、水産保全委員会が本学会の枠組みでシンポジウムを行うこと、沿環連の中核となりジョイントシンポジウムを行うことは重要な活動であり、委員会と理事会との意思疎通を十分に行いたい。」

- ・男女共同参画関係

岡崎担当理事から、3月29日に令和2年度第1回委員会を開催する予定であったが延期となったとの報告があった。また、令和2年度秋季大会中にランチョンセミナーを開催する計画しているとの報告があった。

- ・社会連携関係

安井担当理事から、日本水産学会における社会連携を促進するための情報共有について幾つかの事例をまとめた資料の説明がなされた。

- ・将来計画関係

和田担当理事から、将来計画についてレポートの骨子について次の報告があった。アンケートを取ったデータも含めて今年度中にまとめて報告したい。課題としては学生や若手の会員会費の見直し、代議員制導入、在京会員の負担軽減のためのインターネットを介した会議の推進、学会参加の意義についての議

論，他学会との連携や協同について進めていきたい。

本報告に対して次の質疑があった。

佐藤会長 「総会で将来計画について報告するか。」

和田理事 「時間があれば是非報告したい。」

・北海道支部，地域連携関係

安井担当理事から，令和 2 年度秋季大会開催準備状況について春季大会で開催されなかったシンポジウムや学会賞受賞講演等の対応についても検討するとの報告があった。

・東北支部，地域連携関係

田中担当理事 特になし

・関東支部，地域連携関係

舞田担当理事 特になし

・中部支部，地域連携関係

横山担当理事から，事務局引継ぎ会を 2 月 26 日に行い，次期は東海大学が担当するとの報告があった。

・近畿支部，地域連携関係

家戸担当理事から，近畿支部事務局の引継ぎを行っているとの報告があった。

・中国・四国支部，地域連携関係

日向野担当理事から，2 月 3 日に幹事の引継ぎが無事終了し，2 月 28 日に瀬戸内水研から水産大学校に移動したとの報告があった。

・九州支部，地域連携関係

越塩担当理事 特になし。

・英文書籍監修委員会（特別委員会）

金子担当理事から日本農学賞を受賞された帰山雅秀会員に総説執筆を打診する予定であるとの報告があった。

・東日本大震災災害復興支援検討委員会（特別委員会）

黒倉担当理事から，春季大会中の委員会が中止となったが，残り 1 年で活動を終了するので最後に何らかの形で目に見える活動を実施したいとの報告があった。

・財務検討委員会（特別委員会）

東海担当理事 特になし

②その他確認事項

(1) 引継ぎ事項について

吉崎総務担当理事から各理事が担当・実施した内容における引継ぎ事項について各理事がまとめて至急提出するように再度要請がなされた。

(2) 委任状の回収について

吉崎総務担当理事より，各理事に対し，3 月 28 日 13 時より開催される令和 2 年度社員総会の委任状について回収の協力依頼があった。」

(3) 次回の理事会について

佐藤会長から，次回理事会は令和 2 年 3 月 26 日に 13 時より東京海洋大学品川キャンパスで開催するとの説明があった。

(4) 次回総会について

佐藤会長から総会への理事の出席は社員総会運営規程で決められているので可能な限り出席するよう要請がなされた。

(5) 本学会の財務状況について

金子理事からの財務状況についての質問に対し萩原理事から財政は現状赤字にはなっておらず、さらに Springer との契約変更でこれまで変動が大きかった収支が安定したことによる効果も非常に大きいとの見解が示された。

(6) 令和 2 年度秋季大会の新型コロナウイルスの影響と対応について

良永理事から令和 2 年度秋季大会の新型コロナウイルスの影響と対応について予見できない状況が起こり得るので早めに対応したほうが良いとの意見が出された。また、令和 2 年度秋季大会を中止とする場合には参加費の返還も検討する必要が出てくるので留意してほしいとの依頼があった。

金子理事から運営委託契約に関しても事前に検討を行って中止になった場合に学会の不利益にならないような内容にすべきであり、判断に関しては情報と経験の共有が重要だとの意見が出された。合わせて佐藤会長からは安井担当理事に対応の検討について要請があった。

以上をもって Web 会議システムを用いた会議は、終始異状なく議案の審議等を終了したので、15 時 28 分、議長は閉会を宣言し、解散した。

以上、この議事録が正確であることを証するため、出席した議長（代表理事）及び監事は記名押印する。

令和 2 年 3 月 11 日

公益社団法人 日本水産学会
議長 会長（代表理事）

監 事

監 事